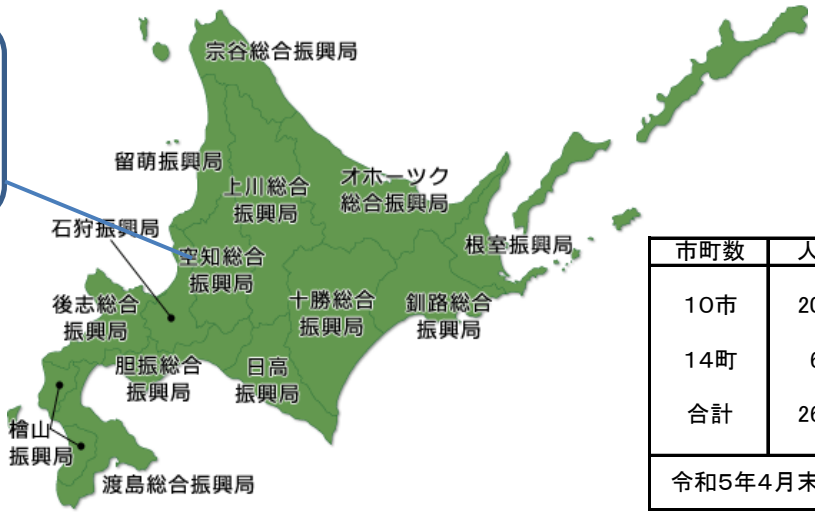
空知の概要

空知管内の
面積
5,791.59k㎡
（三重県とほぼ
同じ面積）



市町数	人　口
10市	204,707
14町	63,001
合計	267,708
令和5年4月末現在	

〖沿革〗

空知は、北海道の母なる川・石狩川の恵みと石炭の発見、原始の森に挑んだ先人のフロンティア精神にその礎があります。

明治元年、石狩の木村吉太郎氏が、小樽本願寺の建立材を求めて幌内近傍に入地、伐採中、幌内炭層を発見、石炭鉱業発展の端緒となりました。

さらに、石炭の積み出しのために建設された鉄道は、北海道の発展とともに、道央と道東、道北を結ぶ大動脈となり、交通の要衝としても発展してきました。

〖現況〗

昭和35年のピーク時には約81万2千人の人口がいましたが、昭和30年代後半からの石炭産業の斜陽化などにより、その後も減少し続け、現在は、約26万7千人となっています。

かつて日本の近代化を支えた石炭産業は文化として、その炭鉱遺産は日本遺産～北の産業革命「炭鉄港」として、現在ではこれらを活用した地域づくりが行われています。詳細は、次ページからの「空知の炭鉱文化と炭鉄港の取組」をご覧ください。

農業では、わが国を代表する稲作の中核地帯となっています。また、農業体験などのグリーンツーリズムでは道内の最先進地域であり、地元の農産物を使ったファームレストラン、直売所、空知産ワインなど、道内有数の農業地帯として、農業との結びつきを強く意識した地域振興が進められています。

〖地勢〗

北海道の中央部やや西方に位置し、上川・留萌・石狩・胆振の各(総合)振興局と境界を接しています。東西約70 km、南北約130 km に及ぶ広大な内陸地帯で、中央を石狩川が縦走し、南西部にかけて豊かな石狩平野が広がっています。総面積は、約5，792k㎡ で、全道面積の約6．9% を占めています。

〖気候〗

南北に細長い内陸地帯のため、南部は比較的温暖、北部は低温で寒暖の差が大きいのが特徴です。

降水量は、夏から秋にかけて比較的多く、季節風の影響を受けて、冬の降雪量も多くなっています。